



## 未来へ残す2台の車両

札幌と道東方面を結ぶ石勝線が昭和56年に開通した時に誕生したのが、『特急おおぞら』などで活躍した「キハ183系」の車両です。しかしながら、その車両も時代の移り変わりとともにその役目を終えました。

役目を終えた車両について、保存予定の車両は1両もなかったところ、北海道鉄道観光資源研究会の協力により、安平町への保存が実現しました。蒸気機関車からバトンを引き継いで北海道の一時代を走りぬけた「キハ183系」。鉄道文化を伝える存在として、「D51 320」とともに第2の人生を歩んでいきます。



## 生産者の誇り「農」にふれる

安平町の基幹産業である農業。その魅力を発信する場、生産者と消費者をつなげる場として「農産物直売所ベジステ」が誕生しました。

「ミニトマト美味しかったよ!」「茹でとうきび甘い!」届けられた声は生産者にとって、自分の挑戦に対する消費者の反応を肌で感じるとる貴重な場となり、次への挑戦、明日への活力となります。

生産者の「農」への思い、誇りにふれることのできる場所であり、道の駅の看板となっています。



## 子どもたちの笑い声が響く場所 「ポッポらんど」

道の駅と隣接する柏が丘公園に体験型の遊び場が令和3年4月に誕生。愛称は「ポッポらんど」、町民からの公募で選ばれました。遊びの中で子どもは育つ、夏は乗車体験のできる「ミニ蒸気機関車」や身体いっぱい使って遊べる「ふわふわドーム」。冬は地形を利用した「ソリ滑り」や「雪遊び」が待っています。子どもたちの大きな歓声が聞こえてくる道の駅の新たなシンボルとしていつまでも愛される公園を目指します。



## 安平の魅力がギュッと集まる

一般社団法人あびら観光協会 おおの 多さん /



安平町には自慢できることがたくさんある!と思っていましたが、まちの魅力が散在し、どこか結びつきが弱い印象でした。

しかし道の駅ができてからは「まちの魅力が一堂に会する場所」として強く機能しているのを感じます。

菜の花畑を見にいらした方が道の駅に立ち寄って、周辺の見どころ情報を探したり、お土産をお求めになられたり。

今後も足を運びたいようなイベントや情報発信の充実を模索して「安平町に来て良かった!」と思っていただけるような道の駅づくりを目指してまいります。

(この記事は2020年初版発行時のものです。)

## 安平町から各地へ届け

生産者協議会 谷口さん /



「農作物の生産者をもっと身近に感じてほしい」「どんな農産物なら安心して手にとってもらえるだろう」。そんな想いから生まれたのがベジステです。

米・野菜・畜産などさまざまな農畜産物が、美味しさと安心安全に挑戦し続ける生産者らによって手掛けられており、そんな生産者にとってベジステは、農畜産物を通して皆さんと繋がることができる大切な場所なのです。

場所ができたから満足ではなく、多くの人に「安平町のものだから食べてみたい」と思ってもらえるように、そして「安平町」という言葉が更なるブランドになるよう頑張っていきます!

(この記事は2020年初版発行時のものです。)